

令和5年度第2回
佐世保市総合計画審議会
会議要旨

【日 時】 令和5年9月27日(水) 13:30～15:50

【場 所】 佐世保市役所本庁舎5階 庁議室

会 次 第

1. 開会
2. 企画部長挨拶
3. 議題
第7次佐世保市総合計画（後期基本計画）素案についてのグループワーク
4. 閉会

○出席委員 14名
欠席委員 6名

【資料】

- ・資料1 令和5年度佐世保市総合計画審議会 年間スケジュール
- ・資料2 第7次佐世保市総合計画（後期基本計画）素案

1. 開会

【前川副部長】

ただいまから令和5年度第2回佐世保市総合計画審議会を開催する。
まず始めに、企画部長よりご挨拶申し上げます。

2. 企画部長挨拶

【杉本企画部長】

前回の審議会では、市長より「第7次佐世保市総合計画（後期基本計画）」の素案について諮問を行い、その概要について説明させていただいた。

本日は、後期基本計画（素案）に基づき、『しごと』『ひと』『まち』『くらし』の4つの分野に分かれ、委員の皆様にごグループワークを行っていただきたい。

少人数での議論となるため、委員の皆様には、現在作成している素案に対して、ぜひとも様々な視点からの忌憚ないご意見、ご提言を賜り、これからの本市の未来に向けた、より良い総合計画を共に作り上げて参りたいと考えている。

本日は、委員の皆様の豊富な経験とお知恵を拝借させていただきながら、議論を行っていただきたい。

【前川副部長】

本日の会議については、現委員20名のうち、半数以上の14名がご出席ですので、会議が成立していることをお知らせする。

なお、本会議の議事録については、個人情報等を除いて、基本的には市のホームページ等で公表させていただくので、ご了承いただきたい。

また、前回の会議以降、令和5年8月10日より任期の委員がいらっしゃるため、紹介する。

まず、佐世保市水産振興協議会から前回に引き続き、溝口委員に就任いただいている。

次に、市民委員として、西信委員と山崎委員に就任いただいている。

ここからの議事進行は、審議会条例の第5条第3項の規定に基づき、西岡会長に一任する。

3. 議題

第7次佐世保市総合計画（後期基本計画）素案についてのグループワーク

【西岡会長】

それでは、議題である「第7次佐世保市総合計画（後期基本計画）素案についてのグループワーク」に移る。事務局より説明があったとおり、4分野に分かれてグループワークを行う。

そして、各グループで分野ごとの意見をとりまとめでいただき、グループの代表者に発表していただく。

グループワークの時間は75分とする。進め方については、各グループに事務局

の職員を配置しているため、説明していただく。

それではグループワークを開始する。

～グループワーク～

【西岡会長】

各グループ取りまとめまで終わったようですので、グループごとに、取りまとめた意見についてお伺いしたいと思う。

はじめに、しごと分野について、発表をお願いしたい。

○しごと分野

【池田委員】

施策1の観光振興について、佐世保市の魅力として九十九島やハウステンボス、佐世保バーガーなどはあるものの、九十九島については、九州内には周知されているが、東京圏や大阪辺りの都市部の方からは、あまり知られていない。そのため、ハウステンボスに来た観光客を、九十九島等の観光地につなげることが必要となる。コロナ禍から脱却しつつある中で、いかに経済消費行動に落とし込んでいくかということが非常に重要ではないか。

また、インバウンドについても同様に、経済消費してもらうための取り組みや工夫が必要である。観光客が佐世保市内に宿泊するところまで繋がっておらず、ハウステンボスでの観光が終わった後は多くの観光客が長崎市内に宿泊されている。そこで、今後は富裕層をターゲットとした宿泊施設などを、ロケーションの良い場所に整備するなどの取り組みが必要である。

そして、佐世保の魅力をいかに情報発信できるかということが今後の課題である。ポテンシャルは大いにあるため、観光の振興をテーマにした情報発信に力を入れてほしい。

施策2の地場産業の振興について、佐世保はもともと基地の町として栄え、米海軍の基地や防衛産業があるが、港の機能がまだまだ不足していると感じる。佐世保に停泊したい船が停泊できずに外に行ってしまうということが課題である。

また、佐世保市外に人口が流出しないために、地場産業の振興や大学を卒業して就職できる雇用環境をつくることが重要であり、地場産業にもDXを積極的に取り込んでいく必要がある。

施策3のふるさと納税制度の推進については、西海みかんや長崎和牛など素晴らしい産品があるものの、佐世保でお目にかかれないことがあり、供給量が不足しているのではないかと思う。今後、特産品の認知度の向上や販売額の向上を図るためには、大手事業者に取り扱ってもらうことが必要であり、そのためには、一定の供給量が必要である。

また、生産者の立場から考えると、まずは佐世保市民に認知してもらい、親しんで

もらいたいののではないかと考える。県外への出荷が中心となり、西海みかんや長崎和牛などを市民の方が触れたり親しんだりする機会がなかなかないというところが、今後の課題である。

施策4の競輪事業収益の確保について、皆さんご存知の通り大村市のボートレースはボートだけでなく、家族が1日楽しめる施設となっている。様々なイベントも行っており、にぎわいの創出に貢献していると思う。佐世保市の競輪場も今後改修されるため、親子連れが立ち寄れるような施設が望ましい。

また、佐世保市の競輪は、ナイターレースに強みがあり、年間約10億円の収益があるため、今後これも伸ばしていき、その収益を佐世保市の様々な政策に活用してほしい。

農林水産の振興については、後継者を確保するためにも儲かる農業水産業の確立と、西海みかんや世知原茶のような製品のブランド化が必要になる。

また、DX活用や販路開拓という部分については、長い期間での行政の力が必要である。

企業立地について、佐世保には工業高校や佐世保高専などがあり、優秀な人材がいる。加えて災害が少ないという要素を強みとして企業立地を進めてほしい。

しかし、ネックになるのは水の確保であると思う。水の確保ができれば、企業立地も進むのではないかと考える。

【西岡会長】

各委員から補足等はないか。

では続いて、ひと分野について発表をお願いしたい。

○ひと分野

【川原委員】

前提として人がテーマの対象であるため、どこまで支援をすればいいのかという、行政支援の限界のようなものも感じながら意見交換をした。

行政支援の政策は非常に多くあるが、どこまでその支援を必要としている人に届いているのかという疑問を抱いている。

母子保健の推進については、乳幼児健康診査受診率を高めるための取り組みが必要であると思う。

また、佐世保市に転入した人に対して、情報が入らずに困っているという人もいるため、しっかりとフォローアップして欲しい。

小児科医師が不足しているということもあり、子ども発達センターの待機期間が3・4ヶ月であるとのことで、医師不足について国や県に対して要望を行うことも必要ではないか

地域での子育て支援について、ひとつの事例として大野地区では、地域で生まれた赤ちゃんにプレゼントを持って訪問するという取り組みがあったそうで、この取り組みにより、どの家庭に赤ちゃんが生まれたかを知ることができていた。子育てサポー

ターという活動があるが、子どもがどこで生まれ、どのような支援を必要としているのかなどの情報がないため、ミスマッチが起きている。今後さらに、家庭と行政と地域が繋がることで、子育てに係る地域コミュニティの輪を広めていくことができるのではないかと。

加えて、支援を求めている方のところに手が届くように、特に転入した人には親切な情報を届ける仕組みをつくる必要がある。市役所に行かなくても、いつでも相談や情報収集ができるような、例えば、AIの活用によるチャット方式などを取り入れたらどうか。

施策3の幼児教育保育の充実については、現状、保護者が保育園の先生たちに依存している。親がすべきことを保育所の先生たちにも尋ねたり、直接的な支援を求めたりする例が後を絶たない。直接支援をしてくれる人が身近にいないということも原因のひとつであると思う。

政策4の経済的支援の推進について、乳幼児福祉医療受給資格の認定は100%になる取り組みを進めていくべきである。手続きが複雑であるため、オンライン申請で手続きができれば、もっと支援が受けやすくなるのではないかと。

学校教育の充実のKPIについて、全国平均を目安にしているが、全国平均がゴールではなく、1割増しのさらに上の目標を立てた方がいいと思う。

豊かな心を育むまちづくりについては、子どもの居場所をつくるということももちろん必要だと思うが、もっと自由に伸び伸びと子どもたち同士で遊ぶ環境をつくれなにかと考える。

生涯学習の充実については、米軍基地があるため、何か交流を深める機会があれば、生きた英語が学べると思う。米軍基地は、定期的に開放されているが、もっと自由に入れたらいいなというご要望も出た。

【西岡会長】

続いて、まち分野について発表をお願いしたい。

○まち分野

【前川委員】

都市政策について、「コンパクトプラスネットワーク」という考え方はトレンドであるが、言葉自体が市民に伝わりにくいのではないかと。コンパクトという概念はわかるが、郊外・中心部ともに住宅は売れているのではないかとという意見も出た。

また、バスが減便しているため、ネットワークが機能するののかという意見もある。

コンパクトシティを進めていくのであれば、地区ごとに人口減少の予測を具体的に示して、バスを利用してもらうように促していく必要がある。

安全で快適な住環境の確保については、空き家を建て替えたところに入居しやすい制度を設けると、空き家の活用が進むのではないかと。

公園の適切な管理運営について、KPIが、「管理瑕疵による事故発生件数(遊具)」とあるが、適切な管理運営というと、利用者の満足度や利用者数というようなKPI

が適切ではないか。

土木政策について、西九州道の4車線化を進めているが、高速道路を降りた後、一般道での渋滞が心配であるため、公共交通機関の利用を促していく必要がある。

また、佐世保は斜面地が多いため、渋滞事故が起きても抜け道がないという意見もあった。

環境政策のカーボンニュートラルの推進について、具体的にどのような取り組みなのかのかわかりにくい。環境政策において、市民に対して何を求めるか、何が環境によいかを示せると良いのではないか。

ごみの減量化や適正処理の促進について、佐世保市はごみの分別自体は他の都市と比べると簡単だと感じる。しかし、ごみ袋にお金がかかるため、住民票を移していない学生にもごみ袋の購入補助があればいいのではという意見が出た。

港湾政策の人流と物流を支える港づくりという施策について、クルーズ船は観光に好影響であるため、ぜひ推進して欲しい。

【西岡会長】

最後にくらし分野について、発表をお願いしたい。

○くらし分野

【深堀委員】

地域コミュニティの活性化の推進については、町内会の加入率が低く、特に中心部はひどい状況であるため、施策に影響していく可能性がある。

現状として、子ども会等の行事も決まった方が参加しており、なかなか浸透していない。市の職員でまだ町内会に入っていない方もいるため、ぜひ市の職員にも入っていただきたい。

また、高齢者が多い地区では、老人会の活動はあるが、若い人をどう集めるかが課題であり、おくんち等の地域の行事を継承する人はなかなかいない。

町内加入率を増やすことは非常に難しいため、どのくらい減少率を抑制できるかという目標設定が良いのではないかという意見や、町内会に加入してからのコミュニティが重要であるため、「民間の役割」に追記できないかという意見が出た。

施策2の安全安心施策の推進については、日頃からコミュニケーションをとることができれば、近所での声かけや情報交換により、安全安心な生活に繋がっていくため、大切にしていけるべきである。

人権尊重と男女共同参画の推進については、なかなか難しい問題で、同性愛については出生時の低下にも繋がるのではないかという意見もあった。また、将来的にこの施策がなくなることが理想なのではないかという意見も出た。

健康づくり推進については、高齢化が進み、高齢者を高齢者が支えているという現状である。離島では施設でのお世話をする方々が、極端に減っている。これらについては、市だけでなく、国を挙げて考えていくべき大きな問題である。

一方で、高齢バスの活用、老人クラブの活動など高齢者の健康に繋がっているとい

うことで、この点に関しては、いいことだと思う。

質の高い地域医療体制の確立について、里帰り出産を希望する委員がおられて、佐世保で出産をするときに、産婦人科の予約が取れないという話があった。出産ができる病院が減ってきているため、問題意識を持ってほしい。

高齢者になっても健康で自立した生活ができる環境づくりについて、非常に今問題であるのが、介護職員の人手不足である。今後運営をどうしていくかについて考えていくべきである。国際大学に福祉学科があるが、受験する人が少なく、卒業しても福祉関係に進んでいないという現状がある。介護人材の確保は重要な問題であるため、佐世保市だけではなく、全国的に考えていく必要がある。

障がい者の自立と社会参加の環境づくりについては、バリアフリーな環境づくりが重要である。佐世保は観光都市で、海外の方も多く訪れるため、飲食店や公園施設、トイレなど、体が不自由な方が使えるように、さらに気を使っていたきたい。

また、「ユニバーサルサービス」という言葉を、文章に入れるべきではないかというご意見があった。

健康を守る生活環境づくりでは、動物愛護センターは非常にいい取り組みであるため、これが動物にもやさしい佐世保のまちづくりに貢献して欲しい。

文化振興・国際都市間の連携の推進について、アルカスや図書館が、教育委員会から市長部局になったことで、活動範囲が広がると思うので、さらに充実させていきたい。

また、ハウステンボスで行われているコンサート等を市内中心部でも開催できるようになれば、市民に文化やスポーツが馴染んでいくのではないかという意見があった。

救急・救助の高度化については、「予防救急」という言葉がわかりにくいため、内容について具体的に書いて欲しいという意見があった。

また、人だけでなく、ペット等にも今後意識を持っていただいて、施策に生かしてもらいたいという意見が出た。

【西岡委員】

4分野の代表の皆さんから、ご紹介いただきましたが、補足等ありましたら、挙手の上、ご発言いただきたい。

【山崎委員】

例えば、観光について、近年、ロケ地の誘致で観光客が増加するという事例がある。佐世保市も観光客は多いが、もう少し目玉になるようなものやアニメ等の聖地巡礼での観光客を呼び込む工夫が必要であると思う。

また、素案39ページの施策の目的に、「自分のよさや可能性を認識」という文言があるが、日本人の子どもは自己肯定感が大変低いということが問題になっている。小さい頃からの教育の中で親や教員、地域の方々も、子どもの自己肯定感を向上させるような環境づくりが必要であると考えます。

【横山委員】

山崎委員の発言に賛成である。

まず自己肯定感については、教育政策のKPIに「自己肯定感」があり、目標値が103.0%とあるが、もっと高い目標にすべきではないかと思う。

また、ロケツーリズムについては、島原市がロケツーリズムについての専門の部署を設けて、かなり強くPRしている。佐世保市も「坂道のアポロン」や「17才の帝国」など資源がたくさんあると思うので、ぜひ推進していただきたい。

【西岡会長】

時間も過ぎているため、まとめに入る。

全体としていえることとして、コロナも収束して、いよいよ次なる新しい時代を築いていくタイミングに入った。そのようなタイミングで作成される総合計画であり、市長も代わられたこともあり、新しい取り組みに対する期待感が今日の議論でも非常に込められていたように思う。

特に、観光面が一つの柱であると思うが、まだ気づかれていない佐世保の良さをどのようにして売り込んでいくのかがポイントになると思うので、行政の皆さんにはぜひしっかり取り組んでいただきたい。

一方で、指摘もあったように、インフラ面、特に水の安定供給については、産業面や観光面などにおいても、不安要因を抱えたままであり、課題だろうと思う。

私も8年半前に佐世保に初めて来たが、佐世保市は素晴らしい材料をたくさん持っているということに気づいた。

ところが、果たしてそれらに地元の方々が気づいているのだろうかと思う。例えば、新鮮な魚がこれだけ地元で手に入り、安く流通しているが、その魅力に気づいていないように感じる。

観光については、九十九島のインパクトが弱いという意見もあったが、そのようなところのアピールが足りないと感じる。

現在コンパクトプラスネットワークが世界のまちづくりの流行であるが、多くの日本の地方都市では、公共交通のネットワークが衰退しきっていて、もう取り返しがつかないレベルまで落ちてしまっている所もある。佐世保市でも以前に比べるとバスの便が減少したという話を聞くが、全国的な視点で、これだけ地方都市で公共交通、MRやバスのネットワークがしっかりしているところはあまりない。そのような意味では、世界のまちづくりのトレンドであるコンパクトプラスネットワークの高いポテンシャルを持っている。

佐世保は多くの宝を持っており、躍進する可能性のある素晴らしい都市だと思うので、どう輝かしていくか、未来に渡していくかというところを総合計画にしていっていただきたい。

私からの取りまとめとしては以上とさせていただきます。

4. 閉会

【西岡会長】

それではこれをもって、今回の審議会を閉会する。

委員の皆様方の議事進行に関するご協力に対して、改めて感謝申し上げたい。

以上